

# 会員だより

6月号の「会計検査情報」で橋梁の不備に関する事例が掲載されていました。橋梁の設計に携わる機会が少なく、正直なところ構造計算が正しく行われているかよくわからないことがあります。不明な点があれば、コンサルにきちんと説明を求め、確認することが大事であると再認識しました。  
渡部敏裕（市町村勤務、56）

6月号の「巻頭言」の「天下の魁・水戸にふさわしい風格のある歴史まちづくり」を読み、地域住民と力を合わせて伝統建築物を復元するということに感銘を受けました。復元整備における木組み工法は、相当な技術力が必要だと思います。コロナが収束したら、その技術力も含め間近で拝見したいと思う、魅力的な内容でした。  
谷本正也（市町村勤務、31）

6月号の「特集」の「総力戦で挑む防災・減災プロジェクト」の取組は、主要施策について具体的な事例を用い、わかりやすく紹介されていました。また、実際の災害対応において、当プロジェクトが効果・発揮しており、感銘を受けました。  
匿名希望（高速道路会社勤務、50）

6月号の「特集」の「簡易型浸水センサ等を用いた浸水状況共有システムの現場検証」を読んで、簡単に設置できる浸水検知システムを適正な場所に設置することで、状況把握をはじめ、住民等への注意喚起や避難行動等に寄与すると思いました。  
匿名希望（元地方整備局勤務、63）

6月号の「特集」の「広域的災害に対応した道の駅を！」がとても勉強になりました。道の駅は、これまでの休憩地としての役割だけでなく、防災上の観点から重要な施設として位置付けが大きく見直されているように感じていました。我が自治体にもいつか道の駅を！という思いを持っている私としては、このような記事は大歓迎です。  
匿名希望（市町村勤務、46）

6月号の大石会長の「上徳不徳」では、江戸時代が300年近く保つことが出来た理由として、人材の適正配置と能力と地位のマッチングがあったことが書かれていました。「人材活用の多様化」は今の時代にも正に必要な概念だと思います。  
匿名希望（市町村勤務、59）

「公務員技術者の訴訟リスク」をいつも興味深く読ませていただいています。公務員が住民などから直接訴えられることが具体的な事例で解説されており、技術職員として身近な問題であると感じました。  
川口滑也（都道府県勤務、54）

業務におけるナレッジな財産を引き継ぐ機会が徐々に減っているため、6月号の「学ぶ・つなぐ・広げる」の「若手技術者への技術の伝承の取組み」に掲載されている「伝承講習会」や「技術の伝承のデータベース」のような取組みを行うことはよいことだと思います。  
匿名希望（都道府県勤務、43）

6月号の「あーきてくと通信」で「空き家対策による地域再生」が掲載されていました。本県の空き家率は、全国ワーストで、様々な対策に取り組んでいますが、目に見えて空き家の増加が進行し、予備軍も沢山控えているのが実情です。  
匿名希望（都道府県勤務、50）

7月号の「表紙」は、本宮堰堤の写真で、立山連峰の雪山と橋梁との景観が絶景ですね。今年度の建設技術講習会で現場見学の予定もあるようですが、一度本宮堰堤も含めて富山県を訪れてみたいですね。  
匿名希望（都道府県勤務、44）

7月号の「特集」の「SNSを使った情報発信の取組」がとても印象的で効果的だと思いました。私自身がリアルタイムで情報を得たいと思った時、検索エンジンや公式HPよりSNSで検索するようになってきています。そういった時代のニーズに合わせて行政も変化が必要になってきていると感じています。  
匿名希望（市町村勤務、33）

7月号の「特集（インフラの魅力が伝わる広報へ）」を興味深く拝読しました。すべて真似してもただの二番煎じになってしまうので、成功した背景やアプローチの仕方を参考にさせていただきます。  
渡井侑典（市町村勤務、32）

7月号の「基礎から学ぶインフラ講座」では「基礎から学ぶ街路事業」が掲載されていましたが、街路初心者の私にとって大変勉強になりました。  
匿名希望（都道府県勤務、49）

7月号の「寄稿」の「今後5年間のインフラ整備の方針を決定」では、「第5次社会資本整備重点計画」について、わかりやすく解説されていたので、どこに重点が置かれたのか理解しやすかったです。  
匿名希望（市町村勤務、44）

「建設技術者のためのこの一冊」に掲載されていた「大暴落ガラ」は、面白そうと感じました。コロナ禍ですごもり時間に読んでみます。  
林 臣志（都道府県勤務、46）

「諸外国のインフラ情報」をとっても興味深く読んでいます。今後も技術面や入札方法など、諸外国との比較した内容を掲載して貰えると嬉しいです。  
中野晃太郎（都道府県勤務、27）

「技術資格試験合格体験記」を読んで、自己研鑽に励まれている方に背中を押される思いです。私も諦めずに挑戦を続けたいです。  
越田紀昭（都道府県勤務、39）

毎月月刊「建設」が届くのを楽しみにしています。私はこの春から工事施工管理幹の職につき、若手技術者の育成する立場になったため、「事例から学ぶ現場力の向上」はとても参考になり、ありがたいです。全国的に若手技術者の育成は検討課題だと思います。  
匿名希望（都道府県勤務、54）

## 「会員だより」の投稿を募集

月刊「建設」に関する意見・感想・要望、その他の全建活動（建設技術講習会、伝承プロジェクト、公務員賠償責任保険等）に関する意見・感想・要望、業務上の悩み等をお寄せください。お寄せいただいた意見等は、今後の編集等の参考にさせていただきます。月刊「建設」の「会員だより」に掲載させていただいた場合は、クオカードを進呈いたします。詳細は全建HP上のバナーをクリックするか、下記のQRコードを読み取ってください。たくさんのご応募をお待ちしております。

一般社団法人全日本建設技術協会 事業課 峯脇・中嶋  
TEL：03-3585-4546 / E-mail：kensetsu@zenken.com

